

POWER!



2015年
7月
vol. 40

平成27年(2015年)
7月20日発行
発行所 ● 日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200
発行月 ● 隔月(奇数月)発行

<http://www.yakuren.jp>

平成27年度全国第一回会長・幹事長拡大会議開催される ～自民党薬剤師問題議員懇談会総会が同時に開催～

平成二十七年六月十一日、都内ホテルにおいて「平成27年度第一回全国会長・幹事長拡大会議」が開催された。

挨拶に立った山本会長は、医療機関の敷地内・施設内に薬局が設置されることは医薬分業の趣旨に反するものであり、日本薬剤師会は5月末に反対決議を行い、都道府県薬剤師会においても反対決議を行うよう依頼した。一方、塩崎恭久

厚生労働大臣は、「患者のための薬局ビジョン」を年内に策定して、五万七千の薬局すべてを患者本位の「かかりつけ薬局」に再編すると表明している。敷地内・施設内薬局は「かかりつけ薬局」としての機能を果たせないことは自明であること述べ、これまでの都道府県薬剤師連盟において陳情活動を行って戴いたことに対して感謝の言葉を述べた。



会長幹事長拡大会議

松本純衆議院議員は、年間七億六千万枚の処方箋が発行され、そのうち二千万枚について疑義照会がされ、一千六百万枚が処方変更されている。国民がこうした事実を知っているか疑問だ。薬剤師が患者さんに貢献している姿を見える仕組みが必要であると述べた。

藤井基之文部科学副大臣は、飲み残しがあるからそれを有効活用しようということではなく、適正に服用するよう患者さんに服薬指導するのが本当だ。そのために疑義照会がある。薬剤師法第24条には、処方箋中に疑問があれば、疑義照会後でなければ、調剤出来ないという。トラブルを心配するのではなく、法律的根拠を説明して、自信を持って疑義照会してもらいたい。そして、薬剤師が残薬問題にどのように関わり、機能していくのか真剣に取り組んでほ



合同懇親会

報告事項では、岩本幹事長が、統一地方選挙の結果、2名減の50名となったことを報告。安東副幹事長は、組織強化について「連盟活動ステップ表」を示し、「都道府県一支部一班」として行動するよう依頼。生田副会長は「薬剤師昨日、今日、そして明日」改訂版を五万部印刷した。全会員に配布できないが、研修会等で使用してもらいたいと案内。手塚副幹事長は「全国女性薬剤師の集い2015」～女性達の声を届けたたいくを5月17日に開催し、114名が参加し、活発な討議が行われた。そして、都道府県薬剤師連で選出した青年部候補者を集め「若手薬剤師指導者育成フォーラム2015」を8月8～9日に開催することを予告。荻野副会長は、都道府県薬剤師連で開催している「若手薬剤師指導者育成フォーラム」参加者が合計1万人を超え、地元で若手を活用するよう依頼。石井常任総務は、規制改革会議、来年度予

算・税制改正に関する要望等について説明した。特に規制改革会議の動きについては判断を許さない状況にあり、緊迫した雰囲気での説明となった。藤井もとよき薬剤師後援会の活動報告では、岩本幹事長が、6月24日に事務所開きを行う。後援会名簿入力ソフトのトレーニングをしてもらいたいと述べ、更に、幕間用藤井もとよきDVDレター」の活用を依頼した。協議では、責任負担金について、荻野副会長が説明。会員数に応じた会費とする。現行より増加するところは軽減措置を図る。そして、会員数を増やすためのインセンティブを与える方策として、例えば、活動支援金還付等を検討する。今年度は、増加しているところは前年度算定額とし、減少しているところは減少額を納入してもらうとの考え方を示した。現在、仮算定している会費額は、9月の評議員会までに、会員数を再調査し、会費額を決定して提案すると説明した。



世話人会

同日、自由民主党薬剤師問題議員懇談会世話人会、同総会が開催され、四月の世話人会で入会が承認された36名に加え、当日更に1名の入会が認められ、合計262名となった。総会後の懇親会には、会長・幹事長拡大会議の出席者等も参加し、大いに盛り上がった会になった。中締め直前に、塩崎恭久厚生労働大臣が登場し「薬剤師の皆さんに迷惑をかける気持ちは一切ない。医薬分業の原則に立ち返り、やるべきことをやって戴く姿に変えるということだ」と一連の発言意図を説明し、拍手喝采を浴びた。

彼らにとって無視できないのが、決めたことには皆が従い、きっちり実行する組織。そういう組織は参議院に組織内候補者を安定して送り続けられるし、衆議院においても味方にしておきたい組織となる。来夏の夏には我々のその力を問われる戦いがある。薬剤師が本当にその力を持った組織なのかを彼らは見ている。永田町のビルの窓から。

増えている。現在の薬剤師に必要なのは情熱。自分たちの将来の薬剤師像を強く持たなければならぬ。そう、医薬分業を目指して新しい法案成立の後押しをするために全国から八千名もの薬剤師達が飛行機も新幹線もない時代に東京に集まりデモ行進を行った時のように。



風力計



日本薬剤師連盟
常任総務 大澤 泰輔

「試される力」

昔では薬剤師不足が続いている。薬学部が六年制になって久しいが当初、定員通りにいけば四年制の一・五倍、一万二千名の薬剤師達が毎年増える計算だったのが実際の増加は一割程度。そのため薬局、病院の仕事は増えているのに、それに薬剤師が見合っていないのが現状で完全な売り手市場。働く気にさえなれば職を選ぶのに事欠かない。週休二日は確約され景気の悪い時でさえ昇給ボーナスは当たり前、時給も高額になっていき自分の希望通りの働き口を探してくれる人材紹介業が成り立つ。今の時代に不満を持たない薬剤師が増えている。現在の薬剤師に必要なのは情熱。自分たちの将来の薬剤師像を強く持たなければならぬ。そう、医薬分業を目指して新しい法案成立の後押しをするために全国から八千名もの薬剤師達が飛行機も新幹線もない時代に東京に集まりデモ行進を行った時のように。

全国女性薬剤師の集い 2015

「女性(わたし)達の声を届けたい」

5月17日(日)、東京・グランドプリンスホテル新高輪にて、「全国女性薬剤師の集い2015」が開催され、全国から約100名の女性薬剤師が参加しました。

テーマは、「女性(わたし)達の声を届けたい」とされ、女性が主役になって、「私たちにできること」について、グループに分かれてディスカッションが行われ、薬剤師としての業務上の問題点や解決策、政治へ関心を向けるためのアイデアなどについて意見交換が行われました。



前回は5月17日に開催をしており、駿を担いで同日の開催にこだわりました。

当日は高橋総務の司会のもと、会長挨拶から始まり、山本会長は、参加者全員が女性という雰囲気にならなくとも、ご自身の家庭も職場も女性の力なくしては成り立たない、男性は女性に頭が上らないと話されるなど、とても場の雰囲気が和らぎました。

続いて若手幹事長から「日本薬剤師連盟の歴史」と題しての講演があり、職能確立のために政治力が必要であること、数は力であるということに参加者全員に認識していただきたいと訴えられました。引き続き、石井常任総務から「藤井議員の活動の軌跡」と題した講演があり、藤井議員は真面目は真面目なのですが……と前置きをしつつ、外見のイメージと違って他人思いでユーモアがあること等、元政策秘書という立場からいろいろなエピソードを紹介していただきました。



その後のランチタイムは、各テーブルで自己紹介やアドレスの交換など、午後からのディスカッションに向けてのアイスブレイクとなりました。



がるよう地域ごとに12に分け、グループ名を花か動物の名前で名付けていただき、政治の重要性、活動の仕方、話し合い、「誓いの言葉」にまとめて発表

していただきました。

それぞれのグループ発表のまとめに入る前に、全国の薬剤師のために力強く活動しておられる日本女性薬剤師連盟の近藤由利子会長が激励に駆けつけてくださいました。近藤会長は東京の大病院に勤務しているときに、当時、厚生省に在籍中の藤井先生と初めてお会いし、なんと頭脳明晰で素晴らしい方だろうと思っただこと、将来必ず有名な薬剤師部長から言われたこと。その後、元参議院議員の故石井道子先生(薬剤師)の後継者として立候補された時から日本女性薬剤師会として応援していることなどが述べられ、薬剤師の将来に向けて、ネットワークづくりは非常に重要であり、今日出合った仲間と連携し、地元でも女性の力を発揮してほしいと激励されました。

なお、本誌5月号の「ファーマ君がゆく」で近藤会長のインタビューが掲載されておりますので、ぜひ再読していただきたいと思ひます。その後のグループ発表は、近藤会長の勢いにも影響されたのか、それぞれ趣向を凝らした力強いものとなり、女性ならではの活力とユーモアにあふれたプレゼンで会場を湧かせました。また、藤井基亨参議院議員も駆けつ



け、グループを廻り、熱心なディスカッションに耳を傾けました。グループ発表後に挨拶に立った藤井議員は、自身の生い立ちに触れて、大学を受験する際に、身内に医師が多く医学部

への進学も考慮したが、医師は素晴らしい職業であるが、その仕事はその日に治療した患者を治すもので、1日1万人の治療はできないが薬ならできる。薬は世界中の病気を治療することができるので、薬を作りたいと思って薬学部に入学したこと。卒業後、厚生省に入り、医薬分業を進めようとしたら薬剤師不足の問題が浮上した。調べたら、免許はあるが働いていない女性薬剤師が非常に多いことが分かり、女性薬剤師会の秋島ミヨ前会長とともに、薬剤師発掘のための生涯教育に取り組んだ思い出などを語られました。参議院議員になって最初の仕事が薬学教育6年制の実現であったこと。各方面からいろいろな批判も受けたが、

都道府県 薬剤師地方議員 18回統一地方選挙結果

日本薬剤師連盟調べ ※敬称略

当落	都道府県	区分	届出氏名	党派	投票日
当選	山口	山口県義	渋谷 正	無所属	元 平成27年4月12日
当選	千葉	市原市議	小沢 美佳	市民ネットワーク	現 平成27年6月 7日

豆知識 vol.3

参議院比例代表は48人?

参議院議員は6年任期なのに、なぜ3年で改選なのか?

参議院には解散がないので、辞職しない限りは6年間の任期をまっとうすることになり、政権交代の影響を受けることもありません。ただし、3年ごとに定数(242人)の半数を入れ替えて、選挙の時期をずらすよう憲法で定められています。このため参議院はじっくりとした議論が行える場所ともいわれています。

場合によっては衆議院と参議院の同時選挙が行われることもありますが、参議院の定数の半分は残ることになります。そうした事態の時においても国会の機能が停止しないような仕組みになっています。参議院の継続性を保つ必要があること、そして、国会の機能を空白にすることを防ぐためです。

ちなみに現在は、参議院議員の定数242人のうちで、比例代表選出議員が96人、選挙区選出の議員が146人となっています。そのため、来年の7月に予定している参議院議員の改選は96人の半分の48人が対象です。



沖縄県 沖縄県若手薬剤師フォーラム(6月6日)



茨城県 茨城県若手薬剤師フォーラム(7月5日)



福岡県 若手地区指導者研修会(7月11~12日)

若手フォーラム開催報告

何とか法案を通したとことなどユーモアを交えて語られ、これからも薬剤師議員として尽力すると力強い挨拶がありました。最後は秋野副会長による閉会の挨拶、手塚副幹事長の発声による「がんばるぞーコール」があり、これからの女性薬剤師による熱い戦いの火蓋が切られて落とされました。

とてもタイトなスケジュールでしたが、時間内で議論し課題をしっかりまとめあげ、団結する女性の力はやはり偉大です。藤井議員の生の声、人となりにも触れることができ、感動した参加者も多かったと思います。集いの趣旨通り、「女性の力を結集して」今後の都道府県薬剤師連盟の活動がさらに活発になることを期待しております。

ファーマーくんがゆく

日本病院薬剤師会の北田光一会長 をお訪ねしました



ファーマーくん以下、**ファーマ** 渋谷駅から歩いて10分で長井記念館に到着します。8年前まで日本薬剤師会と日本薬剤師連盟が入っていたビルで、その8階に日本病院薬剤師会の事務所があります。本日は会長の北田先生をお訪ねし、日本病院薬剤師会のことなどをお聞きしたいと思います。

ファーマ 北田先生、本日はよろしくお願ひします。まず、家族構成を教えてくださいませんか。

北田会長 妻と二人です。二人の子供はすでに独立をしています。孫は3人おり、ジジババとなって3年目を迎えています。

ファーマ 先生の生い立ち、故郷を教えてくださいませんか。

北田会長 自分が生まれた土地ということであれば土浦がふるさとということになります。特に強い印象が残っているというところはありません。いろいろな所を移り住み、それぞれに素晴らしい所があり、思い出もあります。価値の置き所は違いますが、土浦、千葉、札幌いずれにもふるさとに近い感情をもっています。

ファーマ 先生のご趣味を教えてくださいませんか。

北田会長 人様に言える趣味はありません。余暇に好んでやっていることという意味で強いて挙げれば、今は、食害性害虫やモグラと格闘しながら第一次産業に汗を流しています。リフレッシュできて結構楽しいです。勿論、食料になりますから費用対効果の観点からも有意義です。

ファーマ 先生は病院薬剤師として長年にわたって活躍されましたが、業務を通じて記憶に残ることなどを教えてください。

北田会長 私は現場叩き上げではありませんでしたので、身を持っての具体的な体験はありません。しかし、病院薬剤業務が展開・拡大する時期でしたから業務関連で記憶に残る苦労というか思い出は沢山あります。中央業務から病棟業務へのシフト、入院患者ごとの注射薬の取り揃え(その後は、処方ごとのセット)、院外処方せん発行の促進、後発医薬品の採用拡大、治験の一元管理、抗菌薬使用の適正化、注射薬の無菌調製、外来化学療法への参画などにはかなりのエネルギーを必要としましたが、部員の情熱と使命感、病院と他職種との協力で助けられ少しは前進できました。その都度仲間と共有した達成感や記憶に残っています。

ファーマ 日本病院薬剤師会との関わり等を教えてください。



北田会長

大学卒業当時は薬剤師という職種に強い意識はなかったのですが、その後助手として所属した新設研究室に大学附属病院薬剤師部の教授と助教がいられたので、薬剤師との距離が一気に近くなりました。縁あって薬剤師の職員となった後、声かけをいただき日本病院薬剤師会との関わりが生まれました。

ファーマ 日本病院薬剤師会として、特に力を入れていることはなんなのでしょうか。

北田会長 活動の基本姿勢は、「小さく生んで大きく育てる」です。最初に個々の会員あるいは施設の先進的な取り組みや各都道府県病院薬剤師会における取り組みがあつて、本会には社会のニーズを勘案しながら、それらを支援・統合整理して大きな展開に誘導していく役割があると考えています。どの組織も同じですが、本会の各部・各委員会の活動も多くの会員のボランティア的な協力で成り立っています。

本会として特に力を入れて取り組んでいることは幾つかあります。今、薬学的アプローチによるチーム医療への貢献が求められています。そこで、一つにチーム医療の推進への積極的な取り組みに加えて、病棟業務の定着と充実があります。薬剤師が積極的に薬物治療に参画し、質の高いチーム医療を実現することが社会のニーズに応えることとなりますので、創意工夫をしつつ各施設の実情に合わせて病棟業務の定着をお願いしています。

その他に、医療・薬物治療の安全確保への貢献、それを支える資質の向上のための研修の充実、特に生涯研修の質を担保する制度への見直しなどを重要な課題として事業に取り組んでいます。

ファーマ 会長として、病院薬剤師会の会員の皆さんに最も訴えたいことを教えてください。

北田会長 今薬剤師には大きな期待が寄せられていると思います。安全な薬物療法の提供に貢献し、医療安全の要として責任をもって貢献することを求めていますし、ハードルは高くなっています。

期待にこたえて信頼を得るためにこれまで以上に専門職としての力量が問われます。今の薬剤師職能あるいは業務は過去のチャレンジの結果ですので、務は過去のチャレンジの結果ですので、将来の薬剤師職能あるいは業務は今のチャレンジの結果として定着していきます。専門性を鍛え、薬剤師力をつけ、新たな病院薬剤師の職能へのチャレンジを是非お願いしたいと思っています。

ファーマ 最後に、藤井基之議員に対する激励の言葉をお願いします。

北田会長 私たち薬剤師が夢をもって働ける環境作りに引き続き国政の場で活躍いただくよう精一杯応援していきたいと思っています。

ファーマ 本日は、貴重な時間をさいいただき、また丁寧なご説明をいただき、ありがとうございます。これからも元気で活躍いただくことを期待しております。

もとゆき Report 藤井もとゆき 国会レポート

薬剤師・薬学博士
文部科学副大臣・参議院議員
藤井もとゆき



「かかりつけ薬局」定着に向けて

来年夏の参議院議員選挙まで1年となりました。6年前の今頃は、北は北海道から南は九州・沖縄まで、全国を駆け回っていたのを思い出します。現在は文部科学副大臣として、科学技術の発展や文化の振興など公務に追われる日々が続いており、薬剤師連盟支部の会合や各地の薬剤師会の催しにも思うように出席できず、皆様方にご迷惑をお掛けしていますこと、お詫げ致します。

先月山口県の三菱重工業下関造船所で、佳子内親王様ご臨席のもと開催されました、海底広域研究船「かいめい」の命名・進水式に出席致しました。佳子様初の単独公務ということもあり、マスコミでも大きく取り上げられました。テレビや新聞でご覧頂いた方も多いのではないかと思います。

さて、6月16日に政府規制改革会議の第3次答申が提出されました。医薬分業については、「薬局及び薬剤師が薬学的管理・指導を適切に実施する環境を整える観点から、かかりつけ薬局の要件を具体的に明確化するなど、薬局全体の改革の方向性を検討する」としています。注目された、薬局と医療機関の独立性に関しては、「患者の薬局選択の自由を確保しつつ、患者の利便性に配慮する観点から、保険薬局と保健医療機関の間で、患者が行動を行き来することを求め、また、その結果フェンスが設置されるような現行の構造上の規制を改める」としています。6月末の規制改革実施計画の閣議決定を受けて、今後、厚生労働省の中央社会保険医療協議会で具体的な議論が進められることとなります。これまで目指してきた本来の医薬分業への取り組みを後退させるような規制緩和は、決して許してはならないと思います。引き続き、「かかりつけ薬局」の定着に向けて、最善を尽くして参ります。

通常国会は、9月27日まで95日間の長期の会期延長となりました。政権与党として、積み残しとなっている重要法案のための十分な審議時間を確保し、国民の理解を深めていくためには、やむを得ない選択と考えています。

編集後記

「継続は力なり。数は力なり。」この二つは私が薬剤師会会員の集まりに必ず語る言葉です。

薬剤師連盟の組織は数が力になっていないし継続もできていない、できていければ組織内候補がずっと続いて当選できたはずだと思います。繋がらなかつた、続けられなかつたのはどこが問題だったのかいつも考えています。なぜ繋がっていかないのか。紐ではなく固い針金にすれば切れずにつながって来たのか、それでも一本では切れてしまう。線を繋ぐのではなく線を丸めてクリップのようにしてつないでいこうたらどうだろうか。一本の針金より確実に強くなると思います。

若手薬剤師、女性薬剤師、など新しく作ったグループ、長い間選挙を経験してきたベテランの方々、各地域、職域の会員などひとつずつのグループがクリップのような組織になりそれを繋げるなら簡単に切れることはないと思います。ただ一つ大きな課題はクリップをどうやって繋げてゆくのかが、繋ぐ役目は誰なのか、そこが問題です。

往々にして「笛吹けど踊らず」。吹き手が悪いのか踊り手が悪いのか。踊り手に合わせて笛を吹き、笛の音色に踊り手がのって踊ることだと思っていますが、最高の踊りは、みている人も踊りだすこと。吹き手と踊り手を繋ぐ役目、クリップを繋いでゆく役目それを担うのが役員の務めだと思っています。

議員は何をしてくれたのかとか、何をしてくれるのではなく藤井基之議員は私達薬剤師の代弁者として私達の思いを託して働いてもらう方です。

今こそ薬剤師の覚悟が問われています。

広報委員

- 生田泉太郎、安東 哲也
- 大澤 泰輔、鳥海 良寛
- 大原 整、榑方 絢子
- 近藤直緒美、根本 陽充

(A・K)